

本科講座 27 決算整理事項（費用・収益の繰延・見越し）

ねらい 決算整理事項の費用・収益の繰延・見越しを学習する。

今まで学習した費用の繰延・見越し、収益の繰延・見越しは全て家賃関係で説明してきました。しかし実際には、繰延や見越しがあるのは、家賃だけではありません。ここではいくつかの例を上げてみましょう。

例1 当期の10月1日に保険料1年分120,000円を現金で支払った。
決算（12月31日）にあたり整理する。
借方 前払保険料 90,000 貸方 保険料 90,000

この場合の10月1日に支払った120,000円の内容を考えてみましょう。10月1日に1年分の保険料を支払っていますが、実際に当期に必要な保険料は30,000円です。翌期分の90,000円を繰延べる必要があります。ここでは前払保険料勘定を使用しています。このように費用の繰延では「前払〜」という勘定科目になります。

例2 当期の10月1日に現金100,000円を銀行から借り入れた（利息年3%、利払日9月末日）。決算12月31日にあたって、支払い利息を整理する。
この場合まず、10月1日に仕訳
借方 現金 100,000円 貸方 借入金 100,000円 となります。
しかし、決算時には支払い利息を3ヶ月分を整理しないといけませんので、まず、当期分の利息計算を行いません。
 $100,000 \text{円} \times 3\% \times 3 \div 12 \text{ヶ月} = 750 \text{円}$ 。これをもとに、決算整理仕訳を行いません。
決算整理仕訳 借方 支払利息 750 貸方 未払利息 750

この場合、決算日時点では、借入金の利息（支払利息）は利払日（9月末日）がきていないので支払ってません。しかし、借り入れた10月1日から決算日の12月末日までの3ヶ月間も利息は発生しており利払日がないので支払っていないだけと解釈します。このように場合には、当期の費用がいくらであるかを計算し、未払利息勘定を使用します。費用の見越しでは本来支払うべきものを支払っていないので「未払〜」という勘定科目になります。例1、例2を精算表へ記入すると下記のようにになります。

精算表

勘定科目	残高試算表		修正記入		損益計算書		貸借対照表	
	借方	貸方	借方	貸方	借方	貸方	借方	貸方
保険料	120,000			90,000	30,000			
支払利息			750			750		
前払保険料			90,000				90,000	
未払利息				750				750

次は、収益の繰延と見越しをみてみましょう。

例3 当期の10月1日に現金1,000,000円を関係会社に貸し付けた（利息年3%、利払日9月末日）が、その際、1年分の利息30,000円を現金で天引きした。
決算（12月末日）に当たり、上記の利息を整理する。
10月1日に以下のような仕訳になります。
（借方） 貸付金 1,000,000 （貸方） 現金 970,000
受取利息 30,000

決算整理仕訳 （借方） 受取利息 22,500 （貸方） 前受利息 22,500

利息はあくまで期間により発生します。例3の場合、当期に発生する利息は10月から12月までの3ヶ月間であり、残りの9ヶ月は次期の分です。したがって天引きした金額30,000円のうち、決算整理において翌期分9ヶ月分を繰延べ（当期の収益から控除するということが必要になります。この場合は、前受利息勘定を使います。決算整理では、次期に繰延べるべき金額を計算し、その金額で仕訳します。収益の繰延に関しては「前受〜」がよく使われます。

（繰延金額の計算 $1,000,000 \times 3\% \times 9 \div 12 \text{ヶ月} = 22,500$ ）

例4 当期の10月1日に現金1,000,000円を定期預金に預け入れた。（利息年3%、利払日9月末日）。決算（12月31日）にあたり、上記の利息を整理する。

決算整理仕訳 （借方） 未収利息 7,500 （貸方） 受取利息 7,500

預金の利息などは収益の見越しの対象となります。預金利息は支払期日が決まっています。しかし、利息自体は預けているだけで、時間の経過とともに発生しているのです。

決算時点（12月末日）で利払日になっていませんので、利息は受取っていません。しかし当期でも3ヶ月間預けていますから、この3ヶ月分で発生している利息は発生していると考えて見越し計上する必要があります。収益の見越しは、見越し分の利息を計算し、未収利息勘定を使い決算整理仕訳をします。収益の見越しの場合「未収〜」がよく使われます。

（未収利息の計算 $1,000,000 \times 3\% \times 3 \div 12 \text{ヶ月} = 7,500$ ）

例3、例4を精算表へ記入すると下記のようにになります。

精算表

勘定科目	残高試算表		修正記入		損益計算書		貸借対照表	
	借方	貸方	借方	貸方	借方	貸方	借方	貸方
受取利息		30,000	22,500			7,500		
未収利息			7,500				7,500	
前受利息				22,500				22,500
受取利息				7,500				7,500